まちづくりミーティング要旨

１．　団体等の名称　　東海学院大学・同短期大学部
２．　日　　時　　令和６年 10 月 25 日（金）　14 時～15 時 30 分
３．　場　　所　　市役所本庁舎　２階多目的スペース
４．　出　席　者　　＜参加団体＞９名 ＜市＞ 市長
５．　テ　ー　マ　　①各務原市の防災について
②救急車有料化に対して
③地域全体のフレイル予防の取り組み
④地域への交通網、誰もが住みやすい町づくり
⑤食品ロス削減
⑥特別な教育的支援が必要な子どもたちに対して
⑦特別支援教室の充実
⑧若者、学生が地元地域で主体的に考えて動くことができる街とは

テーマ①　各務原市の防災について

【参加者】

各務原市総合体育館について、各務原市では総合体育館を新しく整備されると伺いました。新総合体育館は、「防災」の面でも活躍が期待されているそうですが、具体的にはどのようなことが計画されているのでしょうか。能登の地震や豪雨など身近な地域での災害が続いているので気になっています。最近自然災害が多いので気になっています。

【市長】

昭和 58 年に竣工した現在の総合体育館は築 40 年以上が経過しているため、施設の老朽化が進んでいます。また大きな体育館ですが空調設備がないことをはじめ、一部の競技においては公式記録がとれない・コートが規格に適合していないということ、各種大会の際はご近所の渋滞や路上駐車をされてしまって家に帰れないといった苦情もあるのが実情です。

こうした課題を解決するために、新たに総合体育館を整備することとしましたが、その基本コンセプトを「誰もが快適に使用でき、スポーツや健康づくりを楽しむとともに、あらたなにぎわいと交流が生まれる、安全安心の拠点」としました。

「安全安心の拠点」としての機能は大きく３つあり、「①災害時活動拠点」、「②避難場所」、「③物資拠点」として活用できるような機能を備える計画としています。

「①災害時活動拠点」は、災害時の応援部隊として、公助の中心的役割を担っていただきますが、能登の震災や洪水時にどんな方が来たかというのはテレビで見て重々認識あると思いますが例えば「自衛隊災害派遣部隊」「緊急消防援助隊」「広域緊急援助隊（警察）」といった多くの団体の方、電気やガスなどのライフラインの復旧活動を行う関係機関が集結する拠点のことです。各機関が一つの拠点に集結することで、連携を密にしながら円滑な活動、早期のライフラインの復旧が見込めます。

この活用を見据え、例えば、大型車両等の乗入れや柔軟な作業エリア･野営エリア等の設定が可能となるよう、車輪止めを最低限にするほか、屋外コンセントの設置、停電時でも点灯するような照明灯の設置などを計画しています。

地域によってはここは自衛隊、ここは警察などと別れてしまうこともあるんですが、この総合体育館につきましては、駐車場も 900 台ほど確保する予定ですので、全部の団体が集まっていただき連携をとれる体制を作り上げていこうと思っています。

「②避難場所」は、ご質問にもあったとおり、9 月の能登地方の豪雨をはじめ、ここ各務原市においても数年の間に２回ほど、高齢者避難指示や避難指示を発令いたしました。各務原市始まって以来、立て続けに発令したということで、どこで起きてもおかしくない状況がここ近年続いております。この避難場所においても名前の通り、身の安全を確保するための場所になります。各務原市の場合は小学校区に一つずつ、小学校の体育館（小学校の体育館が使い勝手が悪い、浸水の危険がある場合は中学校）おそらくみなさんのお住まいの地域も小中学校が避難場所に指定されていると思います。この避難場所は河川が氾濫した場合、公共施設が使用できなくなるということも含め、この体育館を臨時の避難場所として活用する計画ともしています。そこで、避難場所として活用するためには市民の皆さんが安心して避難生活を送ることができるように、３日以上の連続運転が可能となる自家発電装置、市役所高層棟に関しては 7 日間自家発電装置が備わっておりますので、岐阜市や大垣市であっても３日間の自家発電装置になりますので、それ以上の自家発電装置を各務原市役所庁舎は持っています。もう一つ大切なことは衛生面ですが、トイレが一番苦労されているということもありますので、マンホールトイレという直接流すトイレの設置も計画しています。３つ目の物資拠点ということで、全国や自衛隊から物資が届くようになっています。それらを整理保管する箱が必要となります。そこで、各務原市は航空自衛隊岐阜基地の東側に大きな備蓄倉庫を建築しております。

他の市町村ではなかなかない規模で、約 1 万 6000 人分の避難物資を準備しております。それだけありますので、そこが空になるときには次の物資が来ているような状況になりますので、安心かなと思います。25mプールが２面分の大きさで高さもありますので上にも積んでいけるので、南海トラフ地震が発生した時の想定避難者数を基準とした物資を確保しています。そこでもう一つ、この総合体育館にもう一つ備蓄倉庫を作っています。今あるものが 100 だとすると、今度作るものは 80 くらいの少し小規模にはなりますが、２つ合わせると 2 万 5～6000 人くらいの物資が確保できるようになりますので、起きてほしくはない災害ですけれども、いざ起きてしまったときにも備蓄倉庫を活用できる建設を目指しております。災害は来るかもしれないではなく必ず来るという認識を持つことによって各々が家庭での備蓄もしっかりしていただく。能登や宮崎の地震をみてもそのあとスーパーのペットボトルの水が売り切れてしまったことがありますので、常日頃からそうなるという認識はみなさんも十分もっていただくことが重要になります。質問に対しては以上となります。ありがとうございます。

<u>テーマ②　救急車有料化に対して</u>

【参加者】

現在、全国的に救急車を有料化するべきであるといった声が上がっており、実際に取り組みを進めている市町村もみられます。この件に関して個人的にはメリット、デメリットがあると感じていて何が最

適なのかわからない状態です。そこで、この件に関してどのようにお考えでしょうか。また、何か取り組みとして考えられていることはありますか。

【市長】

救急車がタクシー代わりに使われてしまうことも時折あるようで、消防職員も苦労しているといいうのが現状です。消防組織法第８条に詳しいのがあるのですが、市町村の消防に関する費用は該当市町村がこれを負担しなければならないとされています。消防機関が費用を徴収することはできないです。一方で今ご紹介いただいたように他のところで徴収しているところもありますが、これは救急搬送された患者さんのうちで、入院に至らなかった患者さんから選定療養費として費用を徴収しているという例があります。この選定療養費に関しては 200 床以上の病院で、ほかの保険医療機関からの紹介状がなく初診で受信した場合、病院が徴収する費用のことをいいます。これは市民病院であったり、病院側が受け取るお金になるということですので、救急車あるいは消防自体が直接お金を請求することができないということが今の消防法の中では定められているということになります。

今メリット・デメリットというお話がでてきましたけれども、この療養費の徴収によるメリットとしては、救急車の不適切な利用が抑えられ、救急車がいち早く必要な方のもとに到着できるという点が考えられると思います。ただ、一方でデメリットとしては、有料化によって本当に救急車を必要とする重傷者の方が要請を躊躇してしまう、そういった可能性もあるので患者を救命できなくなる恐れがあるといったことも考えられると思います。各務原市では、ここ最近救急出動件数の増加もあって、また 119 番通報から現場到着までの時間がかかりすぎているとった状況もりますので、市では緊急に救急車を必要とする人のために、救急車の適正利用に関するご理解とご協力をいただくように働きかけをしています。例として、救急相談を 24 時間 365 日受け付ける岐阜県の相談窓口になりますが、「救急安心センターぎふ＃7119」について市の公式サイトを通じて周知をしています。イベントなどでもパンフレットなどを啓発品として配っている状況です。救急のための救急活動の現場においては皆さんも重々に認識があると思いますが、一秒でも早く到着した方がもちろんいいですので、それまでの間の応急処置としては心肺へは AED が有効な手立てだと考えています。そこで、今月 1 日から各務原市内にある 57 のすべてのコンビニエンスストアに AED を設置していただきました。物は各務原市から提供しますが、やはり場所をとりますのでコンビニの全 57 店舗にご協力をいただいて、どこのコンビニに入っていただいても AED が置いてある状況です。これは県内でコンビニに AED が置いておるのは多治見市さんですが、各務原市の人口の 2/3 ほどですけれども、置いてあるコンビニは２店舗だけですので、多治見の人口規模を各務原市と比較していくと、だいたい 35 くらいはコンビニがあると思いますが、そのうち２か所だけですので、県内ですべてのコンビニに AED を設置したのは各務原市が初めてということです。ぜひ皆さんもいざ何かあればコンビニに AED があることを皆さん覚えておいていただきたいなと思います。定年退職した以前の消防署長が最後にこんなことを言っていました。助けられた命も多かったけれども、助けられなかった命の方が多かったと、これは本当に心に残るような言葉だと思うのですが、この AED を活用することによって消防車、救急車が来る前に助けられなかったかもしれない命がひょっとして助けられるかもしれないということになりますので、ぜひみなさんも覚えておいていただきたいと思います。消防も救急搬送数が年々増加しておりますので、消防職員の体力的にも非常に厳しい状況にもあります。今回あなたが感じていただいたことというのは多くの方がいい認識を持っていただいて適正に救急車を使っていただくというのが必要になってまいりますので、県の「救急安心センターぎふ＃7119」などを活用いただ

いて救急車の適正管理に努めていきたいと思いますのでお願いします。
　もう一点、広報紙が入っていると思いますが一ページめくっていただいた部分に、各務原市ではすべてのコンビニに AED があるということをキャッチコピーに、今日付けの新聞にも大きく取り上げていただいたので皆さんも覚えていただいたらと思います。

テーマ③　地域全体のフレイル予防の取り組み

【参加者】
　岐阜市の芥見町で社会福祉士実習を行い、包括の地域のフレイル予防の取り組みについて学びました。芥見の包括では、地域と連携して、「認知症カフェ」や「認知症ご家族のつどい」を月１回開いており、認知症の方やそのご家族を対象に認知症での悩みを話したり、解決策や関わりのヒントなど情報共有の場として、少しでも気持ちが楽になってもらう取り組みや、近くの公民館など活用してサロンを開き、認知症について知ってもらう講義や指から体全身を使った簡単な体操を行い、地域と協力しながらフレイル予防に力を入れていました。
　実際に私もつどいやサロンに参加させていただき、参加者と交流する機会があり、みなさん「毎回楽しみにきている」や「運動して健康に過ごしたい」と意欲的に参加される方も多くみえ、熱心に取り組んでいる姿がありました。フレイル予防への興味をもつ方が多くみえることから、必要性が高いと感じ、地域住民のみなさまが安心して暮らせるためにもフレイル予防の重要性を改めて実感しました。
【市長】
　みなさんも知っていますよね？フレイルについて。ここが健康な状態でここが介護の必要になりますよ、この間にいかに自分の健康な体を作り上げていくかによって、こちらに行ってしまう・こちらにこれるといったこの間のことをフレイル状態といいます。早いうちに生活習慣を見直すことによって、特にフレイル予防のためには運動であったり栄養、そして口腔、社会参加の点についてうまく活かして自分の生活スタイルに組み込んでいくことが非常に重要というように言われています。これらを組み合わせることによって良い効果が出るといわれています。以上の観点から各務原市ではフレイル予防で健康長寿を合い言葉にしています。主な事業の例としていくつか紹介させていただきます。チラシに入っています、フレイル予防ウォーキングというタイトルでありますが、こちらは令和４年度からすでにスタートしています。これは２か月間に年代と男女別で設定歩数が違うんですが、達成していただいた方には景品を進呈しています。お一人でもお仲間さんと一緒になって歩数達成しようと参加していただいてみえる状況です。この２年間大好評で、予定募集数をはるかに上回る応募があったということから、今年度は 1500 名と大幅に募集人数を増やして実施をしています。景品も各務原市内のお店の何かをお渡しいたしますので、今年度は目標達成者の中から抽選で 300 名に選べる豪華景品、目標達成者全員には特別支援学校の生徒さんが作られたものをプレゼントするとなっています。もう一つには、東海学院大学管理栄養学科さんには大変お世話になっております、にんじんを活用したフレイル予防ということで弁当を作ったりメニューを考案していただいたりというものがあります。
　チラシを見ていただくとみなさんもよく聞く名前だと思いますが今年度より RIZAP さんによるシニアのボディメイク講座を実施しています。運動習慣がない方に RIZAP というネームバリューを活用して、講師の方が食事や運動の方法などを教えていただいて、健康的な食事や運動を習慣にするための手助け

をしていただいています。今年度初めてということでありましたけれど、定員 50 名に対して 229 名の応募いただきました。今回の参加者は抽選で 50 名限定となっておりますけれども、本当に多くの方に応募いただきましたので来年度は定員数を考えていきたい。おもしろいのは、RIZAP さんにも必死になっていただきたいということで、50 名のうち何名が成功・目標達成したかによって成果連動型の報酬で、RIZAP さんも真剣に取り組んでいただけるのではないか。これも県内でも珍しい試みですので、今後も続けていきたいと思います。そしてもう一つ、先ほどもありましたが栄養と口腔といった観点では、簡単に料理ができるようなフレイル予防料理教室を実施しておりますし、今年度 9 月 19 日には東海学院大学さんにご協力いただきまして栄養バランスの取れる食事つくりの工夫を伝えました。そして社会参加ですけれども、認知症カフェについてあげていただいておりましたけれども、認知症に関心のある方が気軽に参加できる認知症カフェを市内 10 か所認定し行っていただいております。それぞれの会場でフレイル予防を実施しているほか、認知症の方が集う自らの体験や希望必要としていることを語りあっていただき自分たちのこれからのより良い暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場でもある本人ミーティングというのも市の方で指導して開催しています。このミーティングには地域包括支援センターの推進員が同席しておりますので、専門職からのサポートもしていただいている状況です。その他ボランタリーハウスというものが市内に 93 か所（集会所や公民館を利用）あり、そこに高齢者の方あるいは障がいのある方、子育て中の方など誰でも参加ができますので、定期的にイベントを開催していただいております。そしてボランタリーハウスに対しては、市から保健師や管理栄養士、歯科衛生士など専門職の方に来ていただいて、市民ボランティアですがフレイル予防サポーターの方がおみえになられます。こういった方々のご協力をいただいてフレイル予防の普及啓発、そして本市オリジナルで作成したフレイルチェックなど地域の中でフレイル予防に貢献している状況です。今年度については 6 月 7 日にフレイルチェック大会というのを実施し、東海学院大学さんの管理栄養学科さんにオリジナルのフレイル予防おやつを考案していただき、プレゼントしていただきました。フレイルチェック大会につきましては、11 月 14 日にも開催いたしますのでぜひお時間あれば一度来ていただいてもいいのかなと思います。これがフレイル予防教室です。11 月 14 日は誰でも参加できますので、お越しいただければと思います。見ることはできるんですがフレイルチェック大会は 40 名、65 歳以上の方が対象ですが、見ていただくことはできますのでお時間あればぜひお越しいただければと思います。

テーマ④　地域への交通網、誰もが住みやすい町づくり

【参加者】

岐阜は名古屋と比べて地下鉄が無く、バスの本数が少ないと感じた。障害福祉施設へ実習をさせていただいた際にも本数が少ないと感じた。また、利用者のほとんどがご家族の送迎で来られており、いずれは一人で生活することになるだろう方達はどうなるのだろうかと感じた。

地域によってはバスが一時間に一本であったり、そもそも通っていないこともあると思う。今後の高齢化社会で車より公共交通機関を利用する人たちは増えてくると思うので、どういった対応や解決策があるのかお伺いしたい。

【参加者】

私は各務原市の高校に岐阜市から通っていたのですが、交通の不便さが感じられました。もう少しバスや電車の便を増やし、交通アクセスが良くなれば、各務原市に住んでいる人はもっと住みやすくなるし、他の地域から来る人も各務原市には魅力的な場所がたくさんあるのでさらに行ってみたい、住んでみたいという町になると思います。

【市長】

各務原市内には名鉄と JR 合わせると 16 駅ございます。この 16 駅というのは岐阜県内で駅保有数としては一番多い自治体になります。岐阜市や大垣市の方が人口は多いのですが、鉄道の域については実は各務原市は県内でも一番多い状況となっております。各務原市の地域はひし形のようになっていて、東西に電車が走っているので南北の公共交通が若干弱いのではないかという課題が今までも言われていました。そういったところから、鉄道と路線バスを補完する公共交通といたしまして、市のコミュニティバス（ふれあいバス）が７路線と、デマンド交通チョイソコかかみがはらも運行しています。加えて民間デマンド交通のチョイソコかわしまが 10 月 1 日からスタートいたしました。パンフレットがございますので目を通していただけたらと思いますが、こういった状況を取り揃えているのですが、やはり名古屋や岐阜市などにお住まいの方からすると、人口が集中する地域の充実した交通網と比較すれば若干不便に感じられるかなという気もします。もともと公共交通がなかったところに、平成 12 年になりますので 20 数年前にふれあいバスの運行を始めてから、皆さんの意見を聞いてダイヤ改正などを行ってきました。市長になる前は、一番長い路線ですと東海学院大学さんの方から新鵜沼駅まで一本のバスの路線だったんですね。片道２時間かかっていたのでせめて１時間に１本は回しましょうということで今取り組んでいるのですが、ここ最近の課題としては、運転手さんがいない・運転手さんになっていただける方がとにかく少ないということで、岐阜バスさんや濃飛バスさんに運行していただいている民間のバスは、乗降者数が少ないところについては減便あるいは廃止路線にしてしまっているところもあります。幸いにして各務原市については今のところ大きな影響はないということで今は安堵しているのですが、これからさらに運転手さんがいなくなってしまうと、こういったところで非常に苦労することがあるのかなと思います。ふれあいバスはよく見ていただくと駅を基点にしています。駅まで行っていただいて、あとは電車で生活圏を確保していただこう、お出かけをいただこうと取組を行っています。あなたは各務原高校なので、バスがなかなかないということでそこもふれあいバスが当初なかったところをふれあいバスを走らせたというのが背景にあります。バスの台数も限られているので脆弱なところはあるかと思いますけれども、みんなで支える持続可能な公共交通という考えのもとで、これからどのように維持をしていくのか・取り組んでいくのかということが非常に重要になってくるかと思います。地域で多くの方が車社会ですので、車を使う方も多いと思いますけれどもバスや電車も利用していただくことによって民間の事業者が撤退をしないような取り組みも市としても行っていこうと思います。チョイソコかかみがはらにつきましては市が運営主体となっております。エリアを指定して運行しています。これの良いところは乗降所がゴミステーションですので、町内のごみステーションであれば何番と掲げています。何番で乗りたいというふうに電話をしていただくあるいは WEB で予約していただくと約 20 分で到着します。主だった公共施設が乗降所になっていますが、それ以外にもエリアを指定して行っていますので、病院やスーパーがスポンサーになっていただいています。スポンサー料を払っていただくことによって、そこが乗降所を設置できるという条件ですので、地域の方々で作り上げていただくチョイソコかかみがはらということで、本当に多くの方々にご利用いただいております。昨年度は１万人

を超える方々に利用いただいております。次にチョイソコかわしまはちょっと違った試みで、アイシンという民間企業（トヨタの部品などを作っている）さんが、もともとはチョイソコカラタンという、柳津町や笠松町を中心にやっていたものを、エリアを拡大していただいてチョイソコかわしまと連携して川島・稲羽西エリアが今回のチョイソコかわしまエリアになるのですが、この地域の方々というのは病院としては東海中央病院に行かれる方よりも松波総合病院に行かれる方も多いです。また、笠松の方がイオンに来られることも多いというところで、笠松のあるところまで乗っていただき乗り継いで松波総合病院に行く、笠松の方であれば各務原まで来ていただいて、そこからはチョイソコ川島に乗っていただいてイオンに行くという、圏域を越えた連携をしていただいているものになるので、全国的には珍しい取り組みになると思います。今後バスの運転手確保が難しい場合も、チョイソコはタクシーですので、タクシーは日中動くことはそうないことからもタクシー業者さんにとっても有効な手立てになるのではということで、今後各務原市のみならずいろいろなところで活用されていくのではないかなと感じています。市といたしましては運転手の確保の難しさもありますが、みんなで作り上げていく公共交通ということで、どこかは我慢をしていただかなければならないですが、ちゃんとやるところは今後もちゃんとやっていきたいと思っております。

テーマ⑤　食品ロス削減

【参加者】

９月に私たちの大学でも「食品ロス」に関する親子教室を実施し、たくさんの方にご参加いただいて、食品ロスは今とても注目されていると実感しました。

各務原市では食品ロス削減の意識を高めるために、特に子どもたちに向けてどのような取り組みをされているのでしょうか。また、これまでの取り組みの中で効果を感じられた施策や成果について教えていただきたいです。

【市長】

食品ロスの削減に対してはいろんな取り組みが全国各地でも行われております。まず食品ロスの削減についてはいろいろなところで啓発しているのがひとつです。そしてもうひとつは今年 7 月 26 日に行われました子ども食堂、9 月 28 日には食品ロスに関する親子料理教室などを取り揃えながら、特に東海学院大学さんと共同で行っていただいている内容が多いかなと思います。それぞれのイベントで気になるのですが、子ども食堂では東海学院大学さんが育てていただいた規格外野菜を使用した夏野菜カレー、おくらサラダ、フードドライブで集まったオレンジジュースやキウイフルーツが提供されました。準備していただいた 50 食が完売いたしまして、イベントに参加していただいたお子様からも、野菜がたくさんでとてもおいしいと好評いただいたと聞いています。また、親子料理教室では昨年 30 名定員であったのを今年度は 60 名と倍増していただいて、それでも満席になるほど大盛況な状況でした。昨年度から食品ロスに特化した出前講座を開いていますが、こちらも昨年度４件だったのですが今年度は 9 月末時点ですでに４件来ているということから、非常に興味関心が高い内容になってきているなと感じています。その他に現在アピタで食品ロス削減啓発イベントを開催していただいておりまして、フードドライブとパネル展示を実施していただいています。そして 10 月 5、6 日には、東海学院大学さんにご協力いただいて物販や廃油石鹸つくりのワークショップ、また店内をめぐる謎解きゲームを実施し、

親子で食品ロスについて学ぶ機会を提供いたしました。ワークショップには71名、謎解きゲームには26名の方に参加いただき、多くのことを学んでいただいたかと思います。こういったいろいろな取組をしているところですけれども、いろんな行動を変容させるために行う啓発活動について特効薬はなかなかないと思います。そういったことから様々な取り組みを通じて粘り強くこういったことを行っていきたいなと思います。参考程度ですが、各務原市北清掃センターがあります。この数値として生ごみの年間排出量（令和元年度）3644ｔ、可燃ごみ全体に占める割合としては10.8%であったのに対しまして、昨年度（令和５年度）には、776ｔということで2.3%まで減少いたしました。生ごみと食品ロスは全く同一ではないですが、この結果から食品ロスも削減されていると考えますので、啓発活動に一定の効果があったと考えられるのではないかと思います。食べられるものを捨ててしまうという、もったいないだけではなくて地球環境にも影響が良くないというところですので、あなたがお話しされるように一人一人が食品ロス削減の意識をもつことは非常に重要なことだと思います。今後も東海学院大学さんをはじめいろいろな団体の方々からアドバイスをいただきながら啓発をし、イベントを通じながら知識を持っていただこうと思いますので、あなたもアイデアがありましたらまた教えていただきたいと思います。気にしていただける方がいますし、生ごみは水分を含んでいますから、市のゴミ焼却場というのは溶融炉ですので高温で溶かします。水分が多いとそれだけ温度が低下してしまいますので、できれば水分が少ない方がCOXという燃料資材も入れますので、COXを購入する量も減ります。そういったことから環境に対する影響も少なくなっていくということで、大きく減ってきた数値というのは市の財政にとってもありがたい状況になっているかと思います。

テーマ⑥　特別な教育的支援が必要な子どもたちに対して

【参加者】

近年、学校教育では特別な教育的支援が必要な児童生徒が増加している傾向にあります。私も母校の小学校で教育実習を行いましたが、私が学生時代に通っていた時よりも通級指導教室が非常に多くなっていまいた。障害だけではなく、外国にルーツのある児童も近年増えていると思います。このように特別な支援が必要な子どもたちに対しての各務原市の支援や取り組みについて考えたいと思います。

【市長】

各務原市のみならず全国各地で教育的支援の必要なお子様が、児童生徒数は少子化によって減ってきてはいるのですが割合的にはだんだんと上がってきているということで、市の状況でも平成25年268名だったのに対して、令和6年度において児童生徒数は減っていますが200名ほど支援が必要なお子様が増えているといった状況です。そしてもうひとつ、通級指導児童生徒数の推移につきましても平成28年から令和６年でこちらも200名以上が増えている状況がみてとれます。こういった児童生徒さんが必要な支援を受けていただけるように学級や教室の適切な設置をしている状況です。特に中学生の通級指導については、先生が学校を巡回するようにしていますので、他の学校へ移動しなくても自分の学校で指導が受けることができるようにしています。そして学級において集団適用ができるように支援するために、すべての学校に特別支援教育アシスタントを配置しています。今年度については80名の方がアシスタントとして活躍していただいておりまして、必要に応じて児童生徒に関わっていただいているのが実情です。そして、教育委員会のほうでは保護者の皆様に相談できる場や受けられる支援について知

っていただけるように、お手元にある「一人一人が力を発揮できる環境へ　～自立と参加～」というリーフレットを毎年作成いたしまして、年長の保護者全員にお渡しをしているほか、相談などでも活用しております。そして来年４月からは小学校から高等部までのさまざまな障がいのあるお子様が通っていただける各務原市立の支援学校が開校いたします。このように現在市内には特別支援学校対象の児童生徒が約 220 名いると推定されていますが、すぐに中濃や羽島に行っている子が各務原に来るのはちょっと環境上よくないと親さんが判断された場合はそのまま継続して通われるかと思いますので、開校当初には 160～170 名程度が入学の意思を示されている状況です。外国の方のお話もありました。外国籍のお子様に関しても年々増加してきています。ただ、岐阜県内で３番目に人口の多い各務原市ですが、外国籍の方の人口割合というのは 19 番目ですので他の自治体よりは比較的低め、高いのは美濃加茂市、可児市というところが非常に高い数値となっています。外国籍の方も 10 月 1 日時点で小学生が 147 名、中学生が 65 名合わせて 200 名を超える方が市内の小学校に通っていただいております。その中で日本語の指導が必要な児童生徒さんは、10 月 1 日時点で小学生が 109 名、中学生が 37 名となっています。就学の時に初期の日本語の指導が必要と認められる児童生徒さん又は親御さんに対して「futuro 教室」という日本語初期指導教室を設置していますので、その教室で学習できることを紹介しています。この教室では簡単な日本語や算数、国語、もうひとつには日常生活や日本の文化というものを６ヶ月間にわたり教えることによって、この指導を受けてからお子様に通常通う校区の学校に通っていただけるようにしています。そして、各学校にポルトガル語・タガログ語・英語に対応した巡回指導員が回っておりますので、日本語の指導が必要な児童生徒さんには授業そして保護者との懇談、文章の翻訳などを行って、外国人児童生徒さんと保護者さんの支援をしているという状況です。そしてもうひとつ、産業活力部内にある観光交流課では国際協会の事務局を預かっています、この国際協会では外国人親子を対象に夏休みに親子日本語教室、また日本で生活するのに必要な生活のための日本語教室、そしてボランティアスタッフとマンツーマンの対話形式の KIA 日本語教室など、様々な日本語教室を開催していただいております。さらにまちづくり推進課では外国人市民との交流あるいは教育支援を行う団体への助成金の交付、マッチングなど様々な支援を行っております。今後も引き続き障がい、外国籍の方々の児童生徒さんに対しまして、市だけではできない部分もありますので関係機関ともしっかり連携をしながら様々なニーズが出てきておりますので、児童生徒に寄り添った形での実施をしていきたいと思いますので、皆さんもお気づきの点がありましたらまた教えていただきたいと思います。

テーマ⑦　特別支援教室の充実

【参加者】

実習で本巣市の特別支援学校に行く機会があった際に、各務原市から通っている児童生徒が多くいた。各務原市には大きな特別支援学校がなく、障害の種別や程度によって市外の遠い学校へ通わなければならないと聞いた。

ホームページで各務原市の特別支援学校について調べたところ、高等部までの特別支援学校を開設予定だそう。だがまだ障害の種別や、程度によっては市外の学校へやむなく通う児童生徒が存在してもおかしくない規模の学校の開設だそう。市内の小中学校ではバリアフリー化も進んでいると聞いた。

しかしまだすべての学校がそれを実現できているわけではない。今後市内ですべての障害種の児童生

徒の学習環境の確保はありえるのか？また、実現されるとしたらいつなのか？

【市長】

特別支援学校については来年４月１日の開校にむけて校舎が立ち上がってきている状況です。本来、特別支援学校というのは県が設立するものになりますので、あなたが実習に行かれた本巣市の特別支援学校は県立の学校ではないかなと思います。現在各務原市には、各務原市立の特別支援学校の高等部があります。高等部を市立でもつのも珍しいです、この特別支援学校は開校から 38 年目になり、軽度な知的障がいの方が通っていただいているということで、小学生中学生の部については、各務原市の東側の子については関市の方に、西側の子については羽島まで通っていただいております。バスに乗れる子はバスに乗って、バスに乗れない子は親さんが送迎するということで、関でも片道 25～30 分、羽嶋だと 45 分～1 時間（乗用車）バスですと片道 1 時間かかることから、お子様たちの負担も非常に大きいと頃があるという認識があります。以前より各務原市に特別支援学校を作っていただきたいという要望はずっと出ていました。僕が市会議員になったのは 24 年前ですが、それよりもっと前から要望は出ておりましたので、僕が市長になった 12 年前に県の方に各務原市内に特別支援学校をぜひ作っていただきたい。という要望を何年間か続けました。ただ、県のこどもかがやきプランの中で特別支援学校の建設予定地の計画がすでにできてしまっていて、特別支援学校も建てた状態であったので、各務原市内に改めてつくる予定はありませんという返答が最終的に返ってきてしまったというところでした。それなら各務原市内で生まれた子については各務原市内でちゃんと育っていただこうというところで各務原市立の特別支援学校の建設する方針を決定したのが約４年前になります。まもなく完成予定ということで一番喜んでいただいたのが、お子様が僕と同じ年代くらいのお父さんお母さんでした。ずっと要望してきた、自分たちも苦労した、だけど次の方々はできるだけ負担がないように何とかしてあげていただきたいということで、その方々がずっと自分たちの子供が小さい時から要望してきたことがやっとできるということで、非常に喜んでいただいております。今度建設する学校につきましては、学校案内も見ていただきながら話していこうと思います。今回は特別支援学校ではなく各務原市立支援学校、特別という字を取ります。特別なサポートではなく、誰でもが支援できる学校にしましょうということで特別を取りました。小中高の一貫校を作ります。軽度・重度・聴覚・病弱・肢体などにつきましてはすべて通っていただける学校にしていきます。ただ、視覚障がい、特殊なところにつきましては受け入れるには専門的な方が必要ですので、一部出来ないところはありますけれども、そういった子たちが市内在住であれば通っていただけるようにしていきます。今回各務原市で作るこのような学校について他の市でも持っていないのか調べたところ、川崎市・神戸市・京都市など人口が 150 万人以上の都市、各務原市は人口 15 万人弱ですので、人口が 10 倍以上の自治体しか持っていないものを各務原市は作り上げていく、そしてもう一つには今言った３市の学校は小中高がばらばらにあります、各務原市は同一敷地内にありますので、12 年間担任の先生は変わりますが多くの目で学校に携わっていただいた先生方がしっかり見ていただけますので、よく親さん方が心配するのは親なきあと、これはよく聞かれる言葉だと思いますが、その後の就労や生活であったりといったところを非常に心配されている方も多いといったことから、小中高ずっと一つの学校で見れるようにということで同一敷地内の同一小中高一貫校としました、これは全国初となります。これを作りますと方針を出した後で、江南や扶桑など少し離れた愛知の特別支援学校に通われていることから、川を渡ればすぐ各務原ですので、引っ越せば通えますかというお問い合わせが数件来ています。それだけ期待値があるのだろうなという風に思っています。そして今回こ

の学校についてはいろんな設備を施しています。温水プールを設置したり、床暖房をひいたり、学校で菜園ができるよう地元の方に土地を提供していただいたりといったことをしていきます。ここで市民の方が非常に関心を持っていただいたのは、学校名を募集したところ、971 件 669 案も応募をいただきました。岐阜県の県立高校で募集した時には 500 くらいしかありませんでしたので、それより募集する窓口が少ないので 500 来てくれればいいかなと思っていたら実に倍の 971 件も来ていただいたので本当に関心高くいていただいているなと思っています。この学校については医療的ケアが必要な児童生徒さんに対しては看護師さんを配置する、障がいの重い児童生徒さんに対しては訪問教育もできるようにしていきます。特別支援学校に通うことが必要な市内のすべての子が通えるようにしていきます。そしてもうひとつ PR できることについていうと、この学校への送迎は大型バスになります。大型バス５台準備しなければなりません。このバスをどのように手配しようかと考えたとき、市内の企業さんあるいは個人の方からも心あたたまる寄附をいただいているのですが、企業版ふるさと納税によってバスの購入をしていきましょうと声をかけさせていただいたところ、今現在で 1 億 2000 万円ほどの寄付をいただいております。わたくしが学校建設方針を立てたときは、まだ資材単価の高騰などなかった頃でしたのでバス５台で１億２千万だったんです。これがバス代も上がってしまったので 1 億 3000～4000 万円になってしまったのですが、ほぼすべて市内・市外の方の寄付でバスが賄えるという風になりました。

そこで企業さんがすごいなと思ったのが、６・３・３でお子様たちを見ていただけるのであれば、うちの仕事のこういうことならできるかもしれませんとおっしゃっていただける、まさに親なきあと、この子たちが卒業した後もどこかに就職できるチャンスがあるのではないかということを市外企業の方々もしっかりとみていただいているというのが非常に私共にとってはありがたい話になったのではないのかなと思います。こういった形でこれから４月１日開校ですけれども、校舎は１月中旬には完成しますので、完成したらぜひ一度見に来ていただきたいと思います。そしてもうひとつ、小中学校のバリアフリー化についてですが、肢体不自由の特別援学級がある学校にはバリアフリートイレへの改修整備、そして障がいのある児童生徒が地域で学べるよう環境整備をすすめています。本市の特別支援教育の一層の充実に今後とも全力で取り組んでいきたいと思います。いまは学校の特別支援学級に対しての話になりますが特別支援学校の話に戻しますと、学校には図書館を作ります。そしてインクルシブユースというものを設置します、図書館も地域の方々にオープンします。インクルシブユーズで遊べる広場についてもオープンにします。インクルシブユーズというと障がいがある方でも使える遊具という意味ですので、ハイハイをする赤ちゃんでも使えるような遊具ということから、ぜひみなさんも興味関心をもって完成時にはぜひ一度来ていただけたらと思います。

テーマ⑧　若者、学生が地元地域で主体的に考えて動くことができる街とは

【参加者】

大人の方や市の方は、学生たちに何を期待していて、何を求めていますか？どんなことが好きで、何が素敵で、もっとこうしたらよくなる！という学生の意見想いや、こういうところが不満、もっとこうして欲しいという改善など、学生が直接市とかかわれる機会を設けることは現実的に難しいのだろうか。

たとえば、このようなまちづくりミーティングをもっと定期的に、活動の幅を広げて、カタリバのような場所を設けるなど、学生ともっと関わってほしい！と、いち学生の自分は思います

補足になりますが、まちづくりミーティングでまず初めに感じたのは、空気感がかたいなと思いました。自分は最年少ですが、楽しく住みやすい街を作ろうという会議なのにお堅い感じでやってもきっといい案は思い浮かばないと思います。楽しく考える会の中でいい案が浮かんでくると思います。

また、学生と市が関わる会を調べたところ、まちづくり推進課のかたが行っている高校生と大学生ワークショップ、かかみがはら市子ども計画、まちづくり担い手育成事業などいろいろあるのが HP をみてわかりました。自分は４月から幼稚園の教員として働く予定ですが、高校生や学生の子が今市や町に対してどんな風に思っているのか個人的に知りたく、７月に岐阜駅で街頭インタビューしました。計 20 校 130 名にアンケートをした結果、学割が使えるお店がほしい、交通網をもっと便利にしてほしい、もっと学校の先生以外の大人と話す機会がほしいと言っていました。なので、もっとこういう機会を増やしてほしいと思うのと同時に、美濃市で武儀高校情報課と提携して市役所内に未来創造課を立ち上げたのをニュースで見ました。これは観光や防災の企画提案に携わって、若者目線のアイデアを取り入れて地域の活性化を図ったり、生徒みずからが課題を見つけて回避する力を身に着けてほしい、これからの未来を担う子どもたちが地域の課題をどう見つけてどう解決するのかを、高校生と大人が考えるミーティングが定期的に行われるのを見たので、各務原市はどう考えているのかを聞きたいです。

【市長】

形にとらわれることはないと思うんですよね、今日は空気感が固いなという感じは僕もしているんですが、先日まちづくり担い手育成事業に参加していただいた方が、那加駅の南側辺りをまちなか大株という、昔はそこに商店街があり映画館もありました。僕が小さいときは母の在所があの辺りだったのでよく連れて行っていただいてすごく楽しい思い出しかなかったのが、お店がない・何にもないということで、今は学びの森と市民公園で行われるイベントが秋だと毎週のようにやっていただいていて賑わいがある。その賑わいを、今空き家になっている商店街を活用して新たな街を構築することによって回遊をしていただけるような取り組みをやっています。ここに参加しているのが、大学生の方や社会人の方もお見えになられて、まさに自分たちで学んでいただいて作り上げていっています。市が外で特に PR しているのは学びの森で活躍していただいている暮らし委員会さんというのがあるのですが、暮らし委員会さんはこちらがサポートするだけで、自分たちで作り上げてくれているんです。そのまちなか大株の中心を担っていただいているのも暮らし委員会の出身の方で、その子の会社を市の指定の団体にして、一緒になってやっていきましょう。あなたたちは好きなことをアイデアとして出してください、こちらはすべてではないですが若干補助金を用意して建物を買い上げ、その建物を借りたい人たちがあなたたちから貸していただき、家賃も何カ月かはこちらで持ちますと。アイデアをいただくことによって作り上げられていくことかなと思いまうす。行政だけで考えると枠にとらわれやすい。カカミガハラパークブリッジはパーク PFI という方式を活用して、市が土地は貸します・上は業者さんで作り運営・管理してください、というもので大成功しています。市がやろうとするともっとカチカチな建物しかならないけれど、民間の方にアイデアを出していただいて、市の土地なので市には賃借料が入る・企業は売り上げが入るウィンウィンな状況を作れているのが、まさに今後大学生・高校生の方々にも期待をするところです。こういった会にしてしまうとちょっと固めなんですが、個々で行くと比較的柔らかいと思います。僕らが小・中学校で地域のイベントなどでいろんな話をしますと、またまちづくりミーティン

グも最初は固めなんですがだんだん溶けてきて、そういったときに本当にいいアイデアが出していただけるのかなと思っているので、雰囲気作りは大事だなと思いつつ、もうひとつには記録を取らなければいけないものもあるので今回はちょっと固めになりましたが、今度ぜひまた違う場で会っていただくと違った面が見えるのではないかなと思います。特に暮らし委員会の皆さんには活動をどんどん広げていただいており、那加のお話をしましたが今度は鵜沼の方の昔商店街のあった辺りも開拓をしたいとの話もいただいており、今回は那加でいろいろと取り組みをしていただき空き家の店舗を活用していただきましたが、各務原市民だけではなく美濃加茂の方も来ていただいて、喫茶やレンタサイクル、お菓子販売などをやります。美濃加茂の方は場所を活用して何かやりたい、自分はその場を経営するのではないけれどレンタサイクルを貸すような仕事がしたい人を応援します。ある学生さんはお菓子作りが得意なのでお菓子を提供します、こういったマッチングができることによって新たなまちができるかと思います。どんどん積極的に学生の皆様には色んなところに顔を出していただいて、よくアンケート勇気をもって取られたなと思います、そういった積極的な学生さんやサポートに回る方々もいると思うので、そういった方々のマッチングも非常に重要かと思います。今回、地元地域で主体的に考えて動くことができるまちというのは、完全にかかみがはら暮らし委員会が良いお手本だと思ってます。そちらには大学生のかたも来ていますし、そこに参加していただいた方がリーダーシップをとっていただいて、また新たな輪を作っていただき、サポートに回る方はサポートに回るのもよいと思いますので、自由闊達な意見を言える場というのはいくらでも作り上げることができますので、そういったところでいろんなことに挑戦していただくことが考えて動くことができるまちになっていくのではないかと考えています。僕も好き勝手な方なので職員が苦労する方だと思います。定例記者会見が午前中にありましたがまさかそんなことは答えんだろうということも答えますので、ちょっと今日は空気感よくない方ととらえられたかと思いますが、違った空気感もありますのでぜひそういったところでも会いましょう！よろしくお願いします。